

以下は、集会開催にあたってのあいさつです

## あいさつ

撫順の受け継ぐ会神奈川支部の松山です。本日は大勢の皆さんにお集りいただきありがとうございます。

前回の証言集会を、3月12日と13日に連続して開催するように計画をしました。その前日、資料や垂れ幕や、受付や準備委員の配置などもほぼ準備が整い、最後のチェックのためにパソコンに向かっているときにあの大きな揺れが発生しました。あの大地震の発生でした。

証言集会を計画した2日間は、市内や県内のあらゆるジャンルの市民団体が、このかながわ県民センターに集まって「市民活動フェア」という一大イベントが行われる予定でした。例年のように、5000人以上の参加者で大賑わいのはずでした。ところがそのイベント自体が中止となって、残念ですが、それに参加して計画していた私たちの証言集会も中止となってしまいました。

チラシの裏面にも書いておきましたが、震災の翌日の交通事情も困難な中にもかかわらず、「県民センターのシャッターが閉まっている、今日の集会は中止ですか」と現地から私に電話を下された方がおられました。その他にも会場に駆けつけてくださった方が何名もおられたことが後ほど判明しました。実際はもっと大勢の方が来ておられたのだと思います。一部の人には中止の連絡ができたのですが、急きよとは言え、連絡が十分に行き届かなかったことについてお詫びを申し上げます。

3月11日の空前のあの大地震の、家も車も会社も、魚市場や老舗のお酒の醸造所も、学校や市役所や病院も、何もかもが津波に飲み込まれていくというすさまじい映像に私は言葉が出ませんでした。映像では見せないようにしていたのですが、おおぜいの人たちがその津波の中に飲み込まれていることは容易に想像のつくところでした。その上、いまなお終息のめどさえ立たない原発災害におびえる毎日であります。私たちは、まさに「人類にとっての未体験ゾーン」に立たされていると思います。

証言集会を中止にしたことで、この日のために大変な準備をされた絵鳩さん、千葉から来て頂く予定でした坂倉さんにはたいへんもうしわけなく、次は、「いつ再開するか」ということを考えないわけではありませんでした。

だが、あのあまりにもの大災害に遭遇して、寒さに震える避難所の被災者のみなさんのことを思うとき、がれきの中を家族を捜してさまよい歩いている被

災地のみなさんを思うとき、また、余震や放射能におびやかされ、「計画停電」という名の「無計画停電」による不安定な状況の中で、頭も身体も切り替わるものではありませんでした。

そのうち、「こんな時こそ、証言集会を再開しましょう」との励ましの声に背中を押されました。そして少しずつ歩みをはじめました。そしてようやく今日のこの証言集会を開催できるところまでたどり着きました。しっかりとした集会にしていきたいと思います。

本日の集会の趣旨についてはチラシにも書いておきました。歴史を画する大震災を体験した私たちにとって、これから何を考え、どう生きていくのか、ある意味ではたいへんな岐路に立たされていると思います。

こんな時こそ、関東大震災を体験して、戦争とシベリア抑留と撫順戦犯管理所を体験された絵鳩さんに聞いてみよう、と思いついたのです。早速絵鳩さんにお願ひしました。そのことが今日の証言集会に結びついたわけでありました。

絵鳩さんは、「藤沢9条の会からたのまれて書いた文章があるから読んでみてくださいか」と言って文章を渡してくださいました。それが、今日みなさんに資料としてお配りした「支部情報21号」です。

「関東大震災の復興の道は戦争への道であった — 前車の轍を踏むなかれ！」と書かれた文章を一読して、かつて日本が「あの戦争」へと突き進んでいった、その原点が関東大震災の復興の過程から始まったのか、という歴史的視点からもしっかりと考え直すこと教えて下さいました。たしかに私には全く考えもおよばなかった視点であります。これこそ受け継ぐ会の一部の人たちだけのものにするにはあまりにももったいない、と意見が一致して今日の証言集会の開催の運びとなったわけでありました。

絵鳩さんご本人は「是非参加します」と仰って下さいました。

たしかに、98才の年齢を迎えられたとはいえ、後ほどビデオを見てもらえば分かると思います。今の絵鳩さんのお元気さから見ても、体力から考えても、集会に来ていただくことには決して心配はしておりません。しかし、1年で一番厳しい時期であり、場合によっては「無計画停電」のある場合も考えなければなりません。そんなことで、ご本人よりも私たちの方が臆病になってしまったのです。

相談の結果、絵鳩さんにはもう少し気象条件がよくなったときに来ていただく、という結論になって、今回のビデオ証言となりました。ぜひご理解をお願いします。

なお、次回絵鳩さんに来て日程ですが、9月25日に考えています。本日のプログラムの下の方に場所と時間とお話しいただく表題を書いておきました。参加ご希望の方は是非手帳にメモをしておいていただきたいと思います。

もうおひとつ、第2部で講演をしていただく藤田先生についてです。

私は個人的には、「三浦半島9条連」という市民組織にも所属していますが、藤田先生は、その「三浦半島9条連」の結成以来から代表を務められています。そこで、私も何回も、何10回にもなりますが先生から貴重なお話を聞かせていただいています。今日、その三浦半島9条連の仲間たちもここに参加してくれています。

先生は、ご自分の平和運動の体験を通じて、学問の分野でも「平和学」として極められておられます。多くの著書も書かれています。配布しました先生の経歴などを参考にしていきたいと思います。

先生は、「日本の平和運動は、被害からの運動が中心で、加害の側を自覚した運動があまり見られないことが最大の欠陥ですね」と、常々仰っておられます。

じっさいに先生は、絵鳩さんたち「中国帰還者連絡会」の方たちの加害証言をたいへん深く注目されておられて、先生の研究活動にも組み入れておられます。ある日、先生は私に、「中帰連の活動を引き継いで、すばらしい活動をしていますね、私も受け継ぐ会の会員になるよ」と仰って下さいました。

私は恐縮しながらも、「よろしく願います」ということで、もう何年も前から、私たち神奈川支部の会員として、先生の忙しいスケジュールの合間にも絵鳩さんの証言集会にも参加して下さっていますし、絵鳩さんのことは充分ご理解をいただいています。

そして何よりもレジメを見ていただきたいのですが、「加害の事実を伝える意義と平和のための学習」というメインの表題と、項目ごとの表題を見ていただければどのようなお話をしていただけるかは、一目了然です。

原発事故でたいへん厳しい現実の中で、今日は原水禁運度運初期の段階から関わってこられた先生の体験から、原発の「安全神話の欺瞞」についてもお話しさせていただきます。

今日の状況の中で震災、原発、そして平和の問題を一体のものとしてお話しいただけるのには藤田先生こそが最適任者だと思います。私たちにとって、いま最も重要な課題だと思います。その意味でもたいへん貴重なお話しになると思います。じっくりとお聞きいただきたいと思います。

ここで、私から皆さんの前で藤田先生に謝らなければならないことがあります。先生の経歴についてチラシでは「もと第 5 福竜丸記念館副館長」と書きましたが、正確にはレジメにあるように「第 5 福竜丸平和協会副会長」を務められてこられたのでした。訂正して心からお詫びを申し上げます。

もう一つです。皆さんにお配りしたビキニ核実験に関する資料ですが、日自他先生にお願いするにあたって調べ物をしていましたらこんなに大切な資料があったのか、と思いました。あまりにも知らなさすぎる現実が書かれています。のち程の藤田先生の話をおもいおこしながらお読みいただきたいことをお願いしておきます。

最後に

- ・絵鳩さんの小冊子 3 冊は今日販売しています。まだ読んでいない方がおられましたらまずは皆さんに読んでほしいと思います。そしていま 3 冊目の冊子「皇軍兵士の 4 年」を編集しています。詳しい説明は避けます。9 月 25 日の証言集会までには完成させます。ぜひ引き続いて読んでいただきたいと思います。

- ・アンケート用紙に書いてある、絵鳩さんを囲むミニ学習会について書いてあります。ご希望の方はお名前を書いておいてください。連絡を差し上げます。

集会の終了目途は 17 時、となっていますが会場は 1 多少の時間オーバーがあっても対処できるように、ということで 8 時まで借りてあります。皆さんの協力をいただいて充実した集会にしたいと思います。最後までよろしく願います。